

モノと情報班

ラオス南部の漁具の利用と設置場所をめぐる季節性

橋村 修 (総合地球環境学研究所)

キーワード：漁具、メコン河、季節性、ラオス南部

Seasonal change of the use of Fishing equipment in Southern Laos

Osamu Hashimura (RIHN)

Mekong River, Fishing equipment, Seasonal change, Southern Laos

1. はじめに

本稿は、メコン川流域のラオス南部・チャンパサック地方における漁撈、とりわけ、漁具とその設置場所をめぐる季節性の問題に関する短報である。資料は、現地調査資料、刊行物、写真、物質文化データである。

モンスーンアジアの雨季乾季の季節変動が、各生業や生活に与える影響については、様々な研究によって示され、モンスーンアジアを考える上での重要なキーワードになるとされている(秋道 2004)。漁撈に関しては、メコン委員会(MRC)の詳細な報告書が知られ、ラオスの魚類の分布や、カンボジアの漁具に関する実測図や季節性データを備えた詳細な報告書を刊行している。また、ラオスの漁具の報告書も刊行されていて、重宝されているが、各地域に即した季節性や魚との関わり、漁具の実測データ等を踏まえた漁具の調査・研究は課題となっている(Gordon Claridge, Thanongsi Sorangkhoum and Ian Baird: 1997)。なお、筆者は、2004年11月のラオス中部南部の調査において、雨季から乾季移行期の漁具(特に漬け柴と笠)の利用と設置場所について観察した(橋村 2005)。

上記の問題関心に従い、本稿では、2005年8月に秋道智彌教授と共同で行ったラオス南部チャンパサック地域における、漁具の利用と設置場所からみた季節性の諸問題について、簡単な報告を行う。また、ラオスの漁具を俯瞰するために、調査データに加えて、ラオスの漁具報告書の記載内容も用いていく。なお、調査事例が少なかったため、本稿では、後者の漁具報告書の記述紹介が主となった。

執筆者の調査研究の課題は、次の4点である。それは、ラオスの人々の漁撈文化の伝統や歴史の事実を残すために現在使用されている漁具や釣道具のいくつかを記録すること、漁具利用と設置場所をめぐる季節性の問題(南ラオスを中心に)の解明、漁業技術の変化が与える漁業資源への影響、漁業における女性や子供の役割である。なお、本稿では、最初の2題を中心に取り上げたことを申し添える。

2. MRC 報告書にみる魚の回遊性と季節性

ここでは、MRC 報告書に記されているメコン川の魚の生態について、概観していく。MRC が刊行している『Distribution and Ecology of Some Important Riverine Fish Species of the Mekong River Basin』(MRC 2004)では、メコン川の回遊魚を3つに区分している¹⁾。さらに、魚の生息場所を産卵場、餌場、乾季の隠れ場所の3つの生息地²⁾に区分し、魚が季節変化の中でどういう場所に滞留するか紹介している。なお、川の大きさは、A .Nam kong 本流 / B .Se khong 大支流 / C .Houay 小支流 / D .Hong / E .Nong に区分される。

魚の移動は、メコン川的环境と密接に関わる。雨季(Flood season)になると、魚は散乱し、漁獲効率(CPUE)が悪くなり、自給程度の漁業生産しかあげられない。乾季の間は、漁撈に際して魚が傷つきやすく、攻撃されやすくなるため、魚は隠れ家に集まりやすくなる。つまり、乾季の魚の量は減少する。魚の見つけやすい漁撈の最

もよい時期としては、魚の移動の時期、とりわけ、よく太った魚が氾濫原に取り残されたときや、川や用水で乾季の隠れ家に魚が移動する時期などが挙げられる。一年でこの期間にとれる魚の多くは、伝統的に様々な方法で、乾物や保存食（たとえば、fermented fish 発酵した魚、ナレズシ）などにするという。以上の記述を、「魚の移動と雨季乾季」として簡略化すると、次のようになる。

「 雨季（小水） 移行期 乾季 移行期 雨季（大水） 移行期 乾季 移行期 雨季（小水） 」

雨季は、魚が多いが水量が多いので散乱し漁獲効率は悪く、乾季は、魚が隠れ家に入るので漁獲効率はいいが、魚の量は少ないとする。さらに、雨季乾季の移行期が、本流 支流1 支流2 用水 水田を魚が移動する時期なので、漁業には一番いい時期であるとみなしている（MRC 2003）。こうした移行期を豊漁期としてとらえる見方は、確かに乾季に柴漬漁や四手網を行うような小規模漁業者の場合に当てはまると思われる。しかし、隣国のタイにおいては、魚の需要の増加による漁業技術の進展や漁業規模の拡大にともなって、雨季の最盛期に、散乱していた魚群を捕獲するための大規模な漁具を設置するなど、雨季を豊漁期とみならず例もある。この漁業では、外の援助や技術伝播によって、コミュニティレベルで、大型漁具を開発し、設置している。以上を鑑みると、漁業の規模や漁種の違いで、魚の最もよく獲れる時期の捉え方に違いのみられることを想像できる。

秋道によると、魚は、主要河川に生息し、長距離を回遊する白い魚（white fish）乾季と雨季の季節変動があってもほとんど移動しないか、氾濫原や水たまりで生息する「黒い魚」、河川の本流から雨季に氾濫原に移動して産卵し、乾季に河川にもどる短距離移動型の「灰色の魚」の3タイプに区分される。

3. 漁具の利用と設置場所、季節性

(1) 漁具の形態と機能

ここでは、漁具の利用とその設置場所（本流～水田）をめぐる季節性などの問題について、表1のラオスの漁具を用いて説明していく。

漁具の設置場所の自然条件は、*Nam* 本流、*Se* 大支流、*Houay* 小支流、*Hong*、*Nong*、水路、水田、池に区別される。

漁具は、形態からみると、網類、釣り具、かご、その他に区分できる。機能からみると、待つ（わな）追う、等に区分される。ここでは、漁具の形態と機能を組み合わせながら、設置場所と季節性の問題も加味しつつ、ラオス南部の漁具を紹介する。

(2) 網

網は、タモ網（scoop nets）、サデ網（triangle scoop net）、四つ手網（life net）、投網（cast net）、刺網（gill net）、地引網（beach seine）、袋網（box funnel net）、「わな網」などがある。



図1. handled scoop net

※漁具図は、（Gordon Claridge, Thanongsi Sorangkhom and Ian Baird:1997）を用いた。



(写真1)



図2 Triangular Scoop Net



図3 life net



図4 CAST NET

Katong と呼ばれるタモ網 (long handled dio net) は、9月から10月の雨季の終わりの頃に、コーンの滝などで使われる(図1)(写真1)。 *Sone* と呼ばれるサデ網 (Triangler Scoop Net) は、コーンの滝周辺においては乾季の1月2月に使われる (*Cyprinids* の移動時季) が、他の地域では雨季から乾季移行期の4月から6月 (*Pangasids* の移動時季) または雨季の7月から9月(舟とセット)に使われる。魚の移動時季に用いている。(図2)

四つ手網 (life net) は、*gadung* と呼ばれ、雨季乾季の移行期に *nong* (池) でおこなわれるケースが多く、主として女性が行っている。(図3)

He/sum he、またはラオス北部で *kouat theo* と呼ばれる投網 (Cast Net) は、通年で使用される地域が多い。(図4)

袋網 (box funnel net) (*Tong*) は、ラオス北部のメコン本流の深い淵でよく見られる。4~5人くらいで行われる漁業である。ラオス南部、中部においてこの漁法は、禁止漁法になっている地域もあって、あまりみられないという。価格は、1993年のサバナケットで3300パーツであったという。(図5)



図5 box funnel net

Mong と呼ばれる刺網 (gill net) は、雨季の刺網 (網目 2~8cm 30センチ) が1960年代後半から1970年代初めに始まり、1980年代に全域に展開したとされている。(図6) また、乾季の刺網 (網目 2.5cm~4cm) は、11月から1月初めに *Probarbus* の採捕を目的に使用されるという。刺し網については、ドンコーンで次の聞き取り情報を得た。当地では、刺し網を3月に行い、メコン本流で約500~600本位やっているという。刺し網を保全区では行わないなどといった、資源管理の取り決めもあるということである。刺し網でとれる魚は、*Pa kot* などである。また筥 (*Sai*) と刺し網を組み合わせた漁法もある。この漁具をキャサン (カ・サン) と呼ぶ。浮き刺し網は、パコン、パッカー、パポ、パッコ、パスワイ、パヌンなどの魚がとれるという。

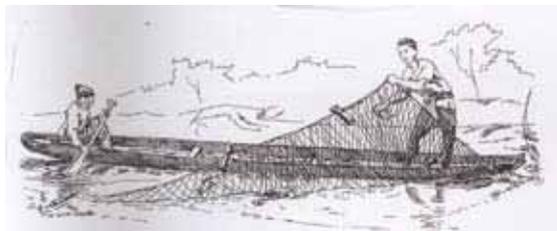


図6 gill net

Kouat mong/ ke ouan とは、地引網の類 (beach seine/ haul seine) である。これは、メコン本流支流等の砂地で12月と6月ごろの雨季乾季の移行期 (水の下降季、上昇季) に行われる。ラオス南部では、違法漁業とみなす地域もあるという。

Man と呼ばれる Bag net across stream mouths は、メコンやセコンの本流、滝周辺で9月から11月に行われているが、違法漁業ともみなされ、巨大網はベトナムから輸入されているという。池や水田、湿地帯に建つ小屋 (家) にサデ網をすえつけて行われる *jip* と呼ばれる Large Scissor net は雨季、洪水の時季に、行われる。小屋は魚の隠れ家にもなるという。

(3) 釣具

次に釣り具を取り上げる。*bet pak* (set pole and line) は、カエル捕り用で罟の機能も持ち雨季に使われる。*bet teuk* (pole and line fishing) は小魚やエビをとる釣具である。*bet piak jom* (bottom longline) は延縄と類似している。その他に、*bet leuam* (fishing with a lure), *bet khen* (雨季) (set pole with live bait) などがある。筆者

らは、2005 年 8 月 7 日にドンコーンでカエル捕り用の釣竿を確認した。これは、長さ 97 cm、糸 108 cm、針は 1 8 号で 50 ~ 100 個程度つけていた。午後入れて、翌朝に捕りにいくということであった。8 月には *Paa due Paa kho Paa lot Paa lat* が釣れるとのことである。竿の竹の種類は、*tai sankai* である。餌はアリ (*bei*) であった。道糸は約 122 cm の時もある。

コーン島調査 (8 月初め) では、水田の畔に立っていた子供が、ナー (*nh*) と呼ばれる小さな弓で魚を狙っているところに遭遇した。(写真 2)



(写真 2)

(4) かご類

かご類は、罟としての機能を持つ、持たないものに区分される。

前者は、まず、現地語で *lop* と呼ばれる大きな筥 (Horizontal cylinder traps) を挙げなくてはならない。これは、竹の柵を作り、そこに回遊してきて柵にあたった魚が *lop* に入る仕掛けである。2 つの円錐状の突起がついている。設置に際しては柴で蔽う。筆者らがチャンバサク (ドンコーン) で調査した大型の筥を紹介する。これは、メコン本流に夏の雨季に仕掛けるもので、騙し用のかえし (*na gar*) がついている。*Na khang* とは「うそをつく」という意味で、中に入って出られないことを表しているという。昔は蔓製だったが、1975 年の革命以降にナイロンに変化したという。当地のひとつの村では、*Lop* を 3 ~ 9 個程度、仕掛けるという。2005 年もやっていた。メコン本流に面した島の岸辺に仕掛けた。ロップのおしりの部分を、*wanapa* と呼ぶという。(図 7)

lop tung (1,3 m、幅 0.3m) は、南ラオスにおいて、移動する魚をターゲットにして、魚の動く季節に、淵に設置される。

sai (筥: funnel basket trap) は、雨季の水田、池沼、淵に設置してカエルを主なターゲットにする。*moi pa mut* (conical Basket trap) は、乾季に、岩場、川底に夕方に仕掛けて雨の後の濁り水になると移動させる漁具である。筆者らがチャンバサクで調査した筥の情報を紹介する。*Lan pak sai* は、入口を *hilian fab* と呼び、*pasoei* という餌を入れておく。これは水田のどこにでも設置していい。各家で持っていて、女の人もやっていいが、だいたい男の仕事である。時折、子供もやっている。(図 8)

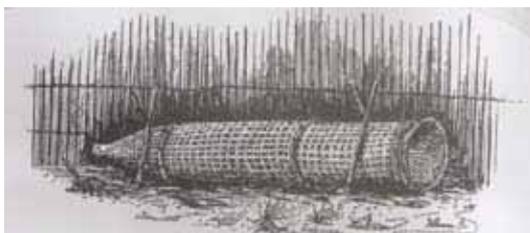


図 7 HORIZONTAL CYLINDER TRAPS



図 8 Funnel Basket Trap



図 9 UPRIGHT BASKET TRAPS



図 10 Branch-bundle fish-attractant devices



図 11 fish-attractant with Fence



図 12 Drop-door Basket and Box Traps

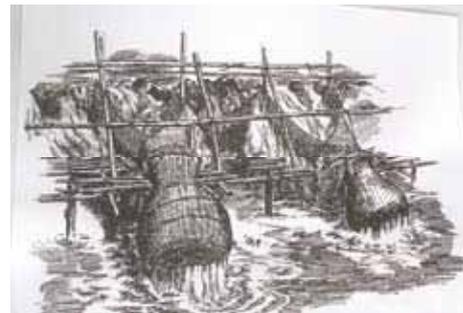


図 13 *tone sai ou* form of *li* used in the far south on the Mekong

Lop と *sai* の違いについて触れておきたい。*Lop* は、筥と魚をおびき寄せる柵がセットになった形態を指している場合が多い。他方、*sai* は、筥の単体を意味する。また、筥の上に葉や土をかぶせて設置する構造自体を示すこともある。

Lan は、ウナギ筥 (Bamboo tube eel trap.nong)、*ngep* はカエル筥 (:Basket Frog Trap) である。籠型筥 (*toum*) は、10月11月に small fish, crabs, frogs の捕獲に用いる。魚籠型筥 (*toum*) は、コーンの滝周辺を中心に、3月から4月の乾季后期の水位の低いところで使われるという。

また、鼠落とし式の罟の *Jun* と呼ばれる Drop-door Basket and Box traps は、水位の上昇する時季、雨季の8ヶ月間にわたって使われる。(図12)

li traps(リー)は、2005年8月5日にコーンの滝(N 13 57 29.7 E105 59 14.5)で確認した。リーの口径75cmあって、長さは2m 30 ~ 75、長さ1m 50 cmで48本の籐から構成されていた。(図13)

柴漬と籠を組み合わせた集魚装置の *Kha* と呼ばれる branch-bundle fish-attractant device は、川の端、岸に固定され、5月から8月の乾季から雨季の移行期の水の上昇する時季に使用される(図10)。さらに、*Sekat pa* と呼ばれる囲い型の集魚建て網 (fish-attractant with Fence) は、雨季(洪水の時季)に使われる。(図11)

伏せ籠 (*Soum*) は、雨季から乾季の移行期に水田や池の水抜きの際に用いられる。ラオス南部ドンコーンにおいて伏せ籠を確認した。これは *Soum, sakpaa* と呼ばれ、口径35、奥の径23.5、反対側8、長さ37cmであった。これは、人の水田でやっても大丈夫とのことだが、チャンパサック・トンワンの村では乾季のみに限定されているとのことだった。竹は、*mai sang phai. Mai phai sang phai* を用いるとのことだった。

その他の漁具としては、いわゆる築の類の構造物が、南部やコーンの滝を中心に、罟の機能を持ちつつ、数多

く存在している。

築の落とし口の部分には、サイ(マイヒア マイサンパイ)が使われていた。これは、中の返しの高さが8.5 cm、底の径12 cm、上17.5 cm、上と中の返しの間長さ24.5、全体の高さ72.5であった。竹のマイヘパンを *toah* の一部分 (*kapun*) に用いた。(図13)

(5) 魚に関わる民俗知識の一例

ここでは、2005年8月の秋道智彌教授との共同調査のノートから、ラオス南部(チャンパサク地方)の漁業関係者にとっての魚の民俗と生態に関わる知識(野の知識)について、季節別に紹介する。

2月は、*Panon* をノンでとっていた。ノンは村の池で、そこでの漁撈は、前日にアナウンスがなされた。ノンでは、ルンパーと呼ばれる、穴を掘って魚が入るような枝を入れる漬け柴漁のようなものも行われた。とれる魚は、*aa xue*、*paa ken*、*paa kha due*、*Paakin*、*paa kanyan*、*paa khao*、*paa due* などであった。

一年中で一番よく魚がメコンを上るのは、2月～3月であった。この季節の漁は、殆どが *paa kha*(パケツ)である。メコンを北上する魚が、淵(深さ約50 m)に入り休憩したところを狙って刺し網などの漁が行われた。

3月は、小舟を出して、刺し網500～600本位が、メコン本流で行われた。このころ北上するパーフォアンはサバナケットまで行くが、それ以外の多くの魚はパクセーで行き、淵の深いところでリターンするものだった。*Paakhe*(パケー)は、供えていた。この *paakhe* は、3月に上る魚で、漁師はパケーをとったときに卵を孕んでいるのをほとんどみかけないという。もし卵のついたパケーがとれたら縁起がよくないので、お寺に供えることにしているという。こうした出来事は10年に一回くらいある。なお、季節の変わり目に、魚を寺に供える習慣があったという。3月から4月は、その年の魚の資源量(保護区の問題)を決める会議が行われる。

5月に上る魚は、*paa kho*、*paa luen*、*paagho papalan*などで、これらは、*houai* から水が流れてくるメコン本流との合流地点から池まで上って卵を産みに行くという。

旧の6月には雨が降る。*Houai* の水がメコンに流れてきたら、魚は入っている。最初にたくさん流れてきた魚を、ナムスーファイと呼ぶ。魚がよく上るのは夜である。*Houai* で上ってきた魚の多くは、ノン *none* に入るといふ。ファイに入らない魚はメコンを遡るといふ。

バクンは、旧暦6月の魚で、5月半～6月に産卵する。1キログラム=3000 KP、旧暦6～8月まで。水田に入らない魚は、ナマズ *Paakung*、*Paapon*、*Pa nyon*、*Panao*などで、ファイの上流まで上って田には入らない。新暦の6月に上る魚は、卵がついているものが多い。それは産卵のために上がってくるらしい。深みから徐々に上る。餌を求めて北へ動く。7月になると、*paa got* がメコン川から入ってくる。

雨季の間は、魚の多く獲れる期間だということを言っていた人もいた。また、メコン川の水位が上がる程、魚がたくさん獲れるともいふ。

旧暦11月になると、水田から、産卵のため水田に入っていたバ・ロンなどの魚が出てくる。

4、むすびにかえて - 季節性をめぐる諸課題 -

本稿では、漁具利用の季節性と漁具の設置場所について概観してきた。しかし、季節性と設置場所を組み合わせ、何らかの傾向を見出すには至っていない。今後は、既存の文献データや調査資料を精査しつつ、それらの傾向を見出していく必要がある。

本稿でのラオスの漁具利用をめぐる季節性の概観作業を通して、雨季と乾季、その移行期というような、季節性の問題の重要性を確認することができた。今後は、季節サイクル(生業サイクル、生活者のカレンダーなど)が、この10年～20年のタイムスパンの中でどのように変化したのか、確認していくことも課題となり得る。

季節サイクルの歴史変化を示すデータとしては、過去における調査者の写真資料やフィールドノートが有効である。例えば、東京大学総合博物館渡辺仁資料(昭和51年)(北部)にある写真資料、稲作民族文化調査隊(使用許可未定)資料、白鳥調査隊資料などが挙げられる。漁撈関連の資料は、これらの写真に出てくる漁具や漁撈風景、市場で並ぶ魚等が該当する。研究資料としての使用が可能な渡辺仁資料をみると、魚、漁具、漁撈風景の写真は、非常に少ない。

また、魚の産卵場でもあり、漁撈の場としても極めて重要な水田の整備過程の歴史的な解明は、耕地整理、圃

場整備の年代を当地の資料を把握することで、可能となる。

モンスーンアジアの特徴は、何よりも雨季乾季の季節変化にあるのは言を俟たない。周期は、一年が一般であるが、焼畑や狩猟、移動漁業の例を考えれば、一年で収まらないから 2 年、3 年の周期で行われている生業もある。

かつて、小林達雄は、縄文人の生活スタイルを「縄文カレンダー」として呈示した。これは、ライフスタイルの基礎をつくる生業活動について、どの季節にどのような活動が活発に行われるのかを図化したもので、衣・食・住にかける労働の組み合わせ方を示している（小林 1996）。まず生活の基盤をなす家づくり、石器・土器づくりをほぼ通年可能な仕事として図の中央におき、それを取り巻く労働の要素として、春を中心としたアサリ・ハマグリなどの貝類採取、夏から秋にかけてのカツオマグロ漁を含めた漁撈活動、さらにその外に秋から冬にかけてのクリ・トチ・ブドウなどの堅果・果実類採集、さらに冬を主としたシカ・イノシシの狩猟活動を組み合わせている。中緯度で四季の変化がはっきりしている落葉広葉樹林文化として、縄文人は季節の移り変わりを敏感に察知し、旬に富む食料を確保、彼らの年間ライフスタイルを確立していたことを想起させる。小林のカレンダーは、地域的相違の問題、縄文時代の中における生業暦の時系列的変化、季節変化、さらに弥生時代の生業暦の問題との関わりなど、いくつもの課題を孕んでいる。こうしたカレンダー作りとそこから生じる課題について、ここ数年のメコンを事例に考えることも有効な課題となり得る。また、田村憲美は日本の中世村落における月別の出産データを示し、数年の変化を押さえ、出産の低くなる月の存在を述べている（田村 1994）。

このように、漁業の経年変化を扱う上で、季節的な変化が、時系列的にどのように変化したかという課題が浮かび上がる。

季節変化に着目すると、交通網の整備による流通システムの変化にともなって、人々が季節性に対する意識を喪失していく動きもみえてくる。例えば、一つの村落内で完結していた作物や魚が、都市の市場に出てくる動きである。この流通網の変化は、都市の消費者の需要にあわせた商業的な生業へと変化することにつながる。当然、季節に依存していた生業からの変化を読み取れる。

これまでの歴史学や民俗学の生業史の研究では、生業カレンダーを作っても、それが時の断面にとどまり、どのように時系列的に変化してきたのか、そのことの考察は稀であった。漁業暦が、交通網の整備でコーンからでもビエンチャン市場をターゲットにした流通網整備や、自給漁業から商業漁業への転換とどのように関わりながら変化したのか、消費者の需要も見据えつつ、検討する必要がある。また、魚を寺に供える習慣の有無からも考える。また、医療の近代化、技術のオートメーション化、政治体制の変化の動き、その他の様々な要因に伴って、人にとっての暦がどのように変化するのか、統合的に考えることも課題となる。その変化（=ズレ）に注目することで、様々な問題が見えてくる。

本稿で扱わなかったが、魚の加工に関して、ナレズシや魚醤の製造について、保存食の観点から季節性が密接に関わることも指摘されている（石毛 1990）。こうした魚と食文化の季節性の問題についても注目する必要がある。

文献

Gordon Claridge , Thanongsi Sorangkhom and Ian Baird: 1997 COMMUNITY FISHERIES IN LAO PDR:A SURVEY OF TECHNIQUES AND ISSUE

M R C 2003 New approaches for the improvement of inland capture fishery statistics in the Mekong Basin Ad-hoc expert consultation Udon Thani , Thailand 2 to 5 September 2002

M R C 2003 Fishing Gears of the Cambodian Mekong 269p

M R C 2004 Distribution and Ecology of Some Important Riverine Fish Species of the Mekong River Basin. 116p

秋道智彌 2004 「北タイ・メコン河支流イン川・コック川における淡水資源利用とモンスーン・モデルの提唱」『アジア・熱帯モンスーン地域における地域生態史の統合的研究：1945 - 2005 2003 年度報告書』総合地球環境学研究所。13 ~ 24 頁。

小林達雄 1996 『縄文人の世界』朝日新聞社。

田村憲美 1994 『日本中世村落形成史の研究』校倉書房。

橋村 修 2005 「ラオス南部のメコン流域における雨季から乾季移行期の漁具と漁撈」『アジア・熱帯モンスーン地域における地域生態史の統合的研究：1945 - 2005 2004 年度報告書』総合地球環境学研究所。424 ~ 429 頁。

石毛直道・ケネスラドル 1990 『魚醤とナレズシの研究 - モンスーンアジアの食事文化』岩波書店, 383 頁。

参考：漁撈関係のキーワード

筆者は、漁撈文化複合のキーワードとして、以下のように考えている。大項目は、環境、自然適応、技術、食など、中項目は川、池、水田・・・(人間の自然への関わり方の具体例)、小項目は柴漬漁、各魚などである。

[リスト]

魚 Anadromous fishes 遡河性の魚類 / Catadromous fishes 降河回游性魚類 / Potamodromous fishes
 河川回游魚
 回游経路 回游範囲 / 餌場 / 産卵場 / 隠れ場所 (乾季) / 氾濫原
 水位 上昇 魚は産卵場を求めて上流へ遡る。 / 淵 成魚 成長期間
 カニ 寄生虫 メコン住血吸虫

漁場の環境・：本流：nam / 支流 houay / 水路・水田、 / 滝の上・下

漁場名称の有無

雨季 乾季 (季節差) 水域 利用

池の所有形態と利用

水田の所有権

耕地整備 (圃場整備)

1980 年代 / 1990 年代 (乾季を基準とした圃場整備が進む。雨季になると溢れる。) /
 2000 年代

苗代田の囲い / 水田以前

湿地帯の所有権 (財産区) / 資源管理 保護区 1 村単位 2 流域全体

漁撈形態 漁具 技能面：(空間軸への持って行き方) 技術 地域差 技術
 伝播。環境による違い 河川 / 池 / 水田・・・。

漁具

カゴ関係 筥 (大型 中型 小型) / 築 リー ・ / 伏せ籠

柴漬 ; 集魚装置 避難場所 産卵場 所有 利用権

網関係 : 四手網 / サデ網 / 投網 (投網塚の有無)

sai 筥 (季節：乾季 変わり目 雨季)

水田漁撈 (水路、畦畔)

kha 弓矢漁 子供 / 水田内部の立ち木の有無 / 塚の存在：投網塚？ (雨季の満水時)

魚毒漁

魚の利用

魚食 : 生魚 焼魚 煮魚 ナレズシ カワシオグサ のり

儀礼 : 寺 家の祭祀 供物 魚の神

注)

1) 1, Anadromous fishes 遡河性の魚類 海で成魚になる。必ず産卵のときには淡水に入る。2、Catadromous fishes 降河回遊性魚類 生計戦略が1と対称的。海の中で産卵。そして、淡水に入る。魚が産卵の準備に入るまでの間、彼らが過ごす淡水域に……。3、Potamodromous fishes 河川回遊魚 メコンで最も重要な魚群。移動はするが、河川の中で完結している。河の中で、産卵場や、餌や、隠れ家を探す。河川回遊魚の移動は縦横無尽。縦の移動は、河川の流れて沿って、他方で、横の移動は川から氾濫原までに及ぶ。いくつかの種類の河川回遊魚は、縦横に移動する。

季節変化と魚の動きとの関わりについては次のように記す。産卵後に成魚は、洪水氾濫原を動く。雨季の間に成魚は稚魚に餌を与え続ける。そして、餌が少なくなる乾季に、稚魚はすっかり大きくなっている。水位が下がり始め、氾濫原が乾くと、たいていの魚は、乾季もずっと水域であり続けるところにある、隠れ家を探し始める。それは、本流のとりわけ深い場所にあたる。

2) 産卵場は、多くのメコンの魚種によって様々で、多量の成魚は、ラオスやタイ、北カンボジアの川の支流まで入り込む。それらの支流には、重要な産卵場が含まれている。主要な餌場と、最も重要な魚の(製造)産出の場は、カンボジアやベトナムの巨大な氾濫原である。その魚のおよそ10万トンは、魚の移動の時季に、毎年、釣り上げられる。乾季の隠れ家は、その成因などについて、ほとんどよく知られていない。しかし、ひとつ重要なのは、乾季の生息場が、カンボジアのクラチエ下流のメコンの本流であることである。そこは、いくつもの深い淵があって、この時期には魚を守る役割を持つ。深い淵は、ラオスやタイなど、本流のさらに上流にもあって、重要な役割を果たしている。(MRC 2004)

Summary: This thesis has a four - fold purpose. First it seeks to record seasonal change of the use of Fishing equipment in Southern Laos. Second it seeks to record some of the fishing gears currently in use to ensure that the people of Laos have some record of this aspect of their culture. Third, the changes in technology described here tell a story about changing pressure on the fish stocks. Four, the role of women and children in fishing.

表 ラオス・メコン流域における主要漁具

	英語名	図番号	日本語	ラオス語	漁具設置場所の自然条件	地域	季節	月	ターゲット	技術 慣行 規模 規制	時代/来歴	ジェンダー
	scoop basket		ざる	kheung		khammouane province						
	wedge-shaped scoop basket			ta seu					small fish/ shrimp/ bait fish		line fishing	女性子供
	conical scoop basket			kanou	mountainous areas	Sekong and Salavan						
網	handled scoop net	1	籬籠?	sawing	running water							
網	scop net		タモ網	sawing								
網	long handled dio net	1	タモ網	Katong	falling water	コーン滝	雨季の終わり	9月~10月				
網	Triangular Scoop Net	2	サテ網袋籠?	son		コーン滝	乾季	1月2月	migrating cyprinids			
網	Triangular Scoop Net	2	さ手網	son			乾季から雨季へ	4月~6月	migrating PANGASIDS			
網	Triangular Scoop Net	2	さ手網	son			雨季	7月~9月		權でこぐ舟		男
網	life net	3	四手網	gadung	nong		slowly raised					女性
網	CAST NET	4	投網	he/sum he			一年中			結婚式 祭り		男
網	SWEEP LINE AND CAST NET	4	投網	Kouat theo	浅い 1.5M 底が石地	ラオス北部						
網	box funnel net	5	袋網	tong								
網	box funnel net	5	袋網	tong	深い 淵?		wet season		large fish	large 4~5人で漁具の規模はsmall. ラオス南部中部ではあまりみられない。禁止漁法になっているから。	サバナケットで1993年で3300バーツ。	
網	box funnel net	5	袋網	tong		北部ラオスのメコン						
網	gill net	6	刺し網	mong			雨季			網目2~8センチ 30センチ	1960年代後半~1970年代初めに始まり、1980年代初めまで全面で展開。	
網	gill net	6	刺し網	mong			乾季	11~1初め	probarbus	網目2.5cm~4cm		
網	beach seine/haul seine		地引網	Kouat mong/ke ouan	砂地	メコン本流 大支流 砂地	low and rising water	12月/6月		南部ラオスでは違法漁業?		
網	bait net/shrimp net			sneng (dang)/d ang	wetland(nong)/小川と川の合流点							
網	hand opened drift net			nam				5月6月	migrating Pangasius			
網	Bag Net Across Stream Mouths			man	本流(メコンやセコン) 滝	南部ラオス~北東カンボジ		9月~11月		非合法	巨大網はベトナムから輸入	
網	Small Scissor Net		さ手網	jip			rising floods					男
網	Large Scissor Net		さ手網(待ち網?)	jip	flooded area, water is rising					小屋から網を入れる。小屋は魚の隠れ家になる竹の籠を作り、そこにあつた魚がlogに入る仕掛け。2つの円錐状の突起がついている。柴で織る。		
かご	HORIZONTAL CYLINDER TRAPS	7	大釜 わな	lop	底 / nong	南ラオス	一年中					
かご		7	大きい釜	lop gnai			魚の動く季節(上り下り)			5m 75cm		
かご		7		lop tung	淵 移動	南ラオス			移動する魚	1.3m 幅0.3m (toumと類似)		
かご	Funnel Basket Trap	8	釜	sai	水田 池沼 淵		rainy season		カエル other	竹製。lopとsaiの違いは不明確。Lopはsaiを大きくしたようなもの。		
かご	conical Basket Trap		釜	moi pa mut	岩場 川底	Nam Song in Vientuane Province	dry season	11~3月	pa mut feed on water weeds growing on the rocks	夕方仕掛ける。雨の後の濁り水になると移動させる。		男
かご	Bamboo Tube Eel Trap		ウナギ釜	lan	nong				eels ウナギ			
かご	Basket Frog Trap		カエル釜	ngep					frogs	woven bamboo. purse-shaped basket		
かご	Upright Basket Trap	9	籠型釜	toum	水底	Nam Don in Khammouane Province		10月11月	small fish, crabs, frogs			
かご	Upright Basket Trap		籠型釜	toum lan								
かご	Upright Basket Trap		籠型釜	toum pa douk					Clarias sp(pa douk)			
かご	Upright Basket Trap		籠型釜	toum pa khao					small white fish(Pa khao)			
かご	Basket Eel Trap		籠型ウナギ釜	toum lan					eels			
かご	Open-weave Upright Basket Traps		魚籠型釜	toum laan	Khone Falls		乾季後期	3月~4月		水位の低いところで		
かご	Plunge Basket		伏せ籠	soum	水田		雨季~乾季			竹製		女性 子供 男性
かご	Plunge Basket			sak sum								
かご	Branch-bundle fish-attractant devices	10	柴漬(ざる付)	kha		the edges of rivers	乾季⇒雨季	5月~8月		water rising		
網	fish-attractant with Fence	11	(囲い型)集魚建て網	sekat pa			floods					
	coconut frond fish-attractant device		(集魚装置)		nong							
	pit and branch bundle			lum	the edge of an overflow wetland							
(わな)	Drop-door Basket and Box Traps	12	鼠落とし式籠	jun			rising floods				tchan	
(わな)	Drop-door Ditch Trap	12	鼠落とし式籠	jun khum		アタプー	雨季	8ヶ月間	木材 竹			
	Drop-door Enclosure			bran			rainy season					
釣り	Hook and line gear						雨季		カエル frogs			
釣り	pole and line fishing		釣	bet teuk					小魚 エビ			
釣り	pole and line fly fishing			bet sit								
釣り	set pole and line		罾	bet pak		コーン、チャンバサク	雨季		カエル 他	夕方仕掛ける		
	set pole with live bait			bet khen		ton khai (ラオス南部)	乾季		Pangasius			
	set pole with live bait			bet khen			雨季		ton koum			

2005 年度生態史プロジェクト報告書

釣り	fishing with a lure			<i>bet leuam</i>									
釣り	bottom longline		延縄(「うなわ」と類似?)	<i>bet piak jom</i>									
釣り	surface longline		(「うなわ」と類似)	<i>bet piak loi</i>									
釣り	eel hooking			<i>bet ian</i>			乾季後期	3月4月	frogs 魚がハン グリー				
かご	barbed rattan cone		わな	<i>sai naam</i>		ピエン チャンより 北部 山	雨季	魚が動く 時季			一晚中 / rattan		
(わな)	current filtering gear		円筒状突起付き罟										
罟	fence filter traps	13	罟	<i>li</i>	khone falls	コーン滝	雨季(水位上昇)	5月~7月	cyprinids pangasids				
罟		13		<i>tone</i>		南部		1月~3月	small migrating cyprinids				
罟		13		<i>tone sai ou</i>									
罟				<i>tone</i>		中部							
(わな)	cylindrical current trap			<i>jip</i>	急流(遡上)	南部コーン滝	乾季	1月2月	small cyprinids	woman bamboo			
(わな)	cylindrical current trap		うけぜき	<i>jip</i>		南部コーン滝	雨季 rising water	4月~6月	pangasids				
(わな)	cylindrical current trap		うけぜき	<i>jip</i>		南部コーン滝	雨季→乾季 falling water	10月	cyprinids, catfish				
	fall-back / waterfall chute			<i>ou ten</i>	滝	コーン滝	乾季	1月~3月	カンボジアからメコンを上るsmall				
	conical filter basket trap			<i>tong sai son</i>	水田の畦								
	wedge cone trap		(うけぜき)	<i>souang</i>	shallow flooding area	nam hinboun					柴で覆う		
	woven wedge trap		うけぜき	<i>ka sone</i>	急流	コーン滝		5月6月			夜の漁		
	enclosed fence trap		(生け簀)	<i>luang khang / tone</i>				5月~7月				1980年から	
	bamboo fence			<i>pheuak / ti pheuak</i>									
	pit traps			<i>lum</i>	氾濫原 湖		雨季の終わり	10月後半 11月					
	spearing equipment			<i>lem/lem ngiang pa</i>									
	harpoon			<i>sanong</i>	khone falls area				large fish/ Bagarius yarrelli, Mystus sp, Pangasius sp				

注 本表は、ラオスの漁具関係資料集(『COMMUNITY FISHERIES IN LAO PDR A SURVEY OF TECHNIQUES AND ISSUES』)と、2005年8月の秋道智彌教授との現地調査データを利用して、橋村が作成した。